

# 祐善寺だより

第3号

発刊日

平成12年10月20日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡朝日町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



生まれた瞬間から

老化の一途を辿る<sup>たど</sup>

老いてゆくもの

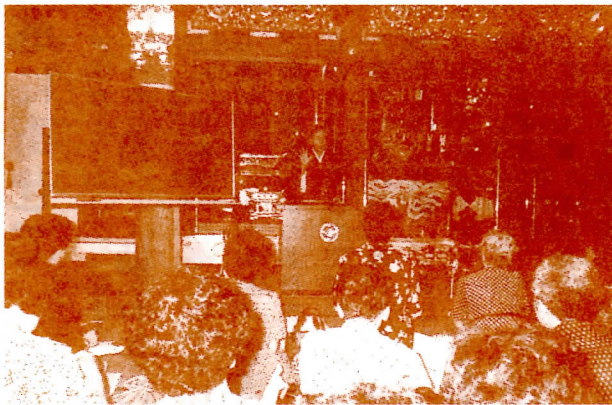
それが人間だ

毎週一

## 永代経会（八月七日）参詣にぎわう

当寺の本年度の永代経会は、例年どおり八月七日に勤まりました。月曜日というウィークデイにもかかわらず、たくさんの方々に参詣していただき、大変有り難いことでした。

永代経会の読経のあと、大門照忍師に布教（写真①）をしていたきました。また、お昼は、森区の門徒婦人の方々による手作りの真心の込もった御齋（写真②）に、参詣者の



写真① 大門師による布教に聴き入る参詣者



写真② 心の込もった御齋は参詣者から喜ばれる

方々も大変喜んで召し上がっていただきました。

また、役員さんは、帳場を管理して下さいました。

ご協力いただいた皆様、ご参詣いただいた皆様、本当に有り難うございました。



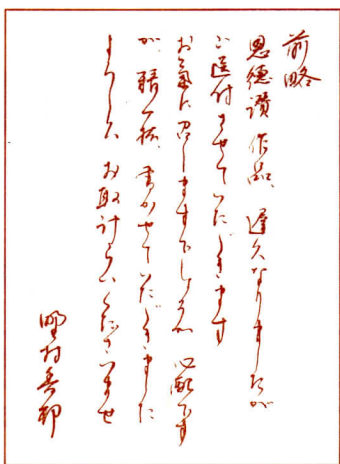
# 「恩徳讃」額が 当寺本堂に

法会のあとによく謳われる「恩徳讃」

の額が、この程、門徒総代の島助右工門様の寄進により本堂入口（写真）に掲げられました。この額は、朝日町出身の日展作家である野村香邨様の書によるもので縦二尺八寸、幅五尺七寸の大変立派なものであります。

恩徳讃は、親鸞聖人が燃えたる仏恩報謝の深い思いを和讃にしたためたものであります。この額の寄進を機会に、更に門信徒の皆様へ「恩徳讃」が親しまれるよう願うものです。

島様、野村様はじめご協力頂きました皆様に、この紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



野村香邨様から島助右工門様へのお手紙の一部を原文のまま掲載させていただきます。

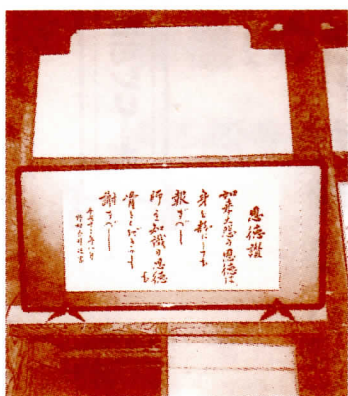
# 『恩徳讃の額』寄進に寄せて

島 助右工門

法話会の終りなどでもいつも斉唱される恩徳讃は、親鸞聖人が八十五歳を過ぎてからお作りになられた和讃だと聞いている。それだけに、この和讃には聖人の教えのエッセンスが込められているように思う。

この恩徳讃を、寺へ参って下さる方々に、正信偈なみに馴染んで貰うために、寺の行事の待ち時間帯にバックグラウンドミュージックとして流しておくか、額にして本堂に掲げたらと、数年前から思っていた。

そんな中で、朝日町出身の書家 野村ひかりさんのお母さんが、一昨年から寺の報恩講に参って来て下さっているが、昨年になって、野村さんがあるご門徒と姻戚になられるのだとお聞きしました。住職とも話し、ご縁続きの



本堂入口に掲げられた「恩徳讃」の額

方に、恩徳讃の揮毫をして頂ければ有り難いがと、朝日町福寿会連合会長の上野保雄さんからお母さんに、お母さんからひかりさんに聞いて貰ったところ書いて頂けるとのご返事でしたので、昨年暮れにお願いしました。

野村ひかりさんは（雅号は香邨さん）、朝日町朝日の野村光誠さん（今は故人）のご息女で、成瀬映山師に師事。筑波大学大学院修士課程 芸術研究科 美術専攻（書コース）終了。

現在謙慎書道会常任理事、読売書法会評議員、日展入選八回。國学院大学、川村学園女子大学講師。  
で、大変お忙しい公務の中で揮毫して頂き、七月下旬に「精一杯書かせていただきました。ありがとうございました」というお手紙とともに送って下さいました。

また額縁は野田の和田指物店さん、額装は福井の村中表具店さん、本堂の長押し付けは峯森大工さんのお力を頂きました。夫々の方が心の籠ったお取組みを頂き、有り難うございました。

お力を頂いた方々のお仕事が生きるように、この額が所期の願いどおりになることを願うものです。

# おくやみ

清水彌太郎様（朝日町気比庄）には、十月十三日、行年八十九歳にて往生の素懐を遂げられました。御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



# 投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発行を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。

どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。どしどしご投稿下さいますようお願いいたします。

### 平成12年度護持費の志納よろしくお願いします

祐善寺を永代に亙って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようよろしくお願い致します。

#### ◇護持費の使途

- ・報恩講の厳修費や本山奉仕団補助等、教化事業の実施
- ・本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・蓮如上人五百回御遠忌準備積立
- ・本山相続講、福井教区賦課金等
- ・その他

#### ◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

#### ◇志納方法

- ・寺へ直接志納する
- ・秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・地区の役員さんに志納する
- ・郵便振替口座

(〇〇七七〇―九一三〇七二一)  
加入者「祐善寺」

へ振り込む

#### ◇志納期限

毎年十一月末日

## 炎天下で 草刈り奉仕

去る七月三十日、炎天下のなかで森杖立区のご門徒さんによって、寺周辺の草刈り奉仕が行われました。

例年、朝日町のご門徒さんが三年の輪番制で永代経会の前に草刈り奉仕をしていただいております。

寺総墓から土手までの広い範囲を、しかも、三十度を超える炎天下の中で献身的に草刈りをしていただきました。このような尊い作業が、寺を永代に護持していただくのです。



炎天下で行われた草刈奉仕

### 其二

## 仏事 一口メモ

### お内仏のお給仕

お内仏は、ご本尊・阿弥陀如来を中心に、さまざまな仏具をもって仏さまの世界（浄土）を表現しているのです。そして、浄土をお飾りするお内仏によって、私たちは生き生きとした精神生活の有り様を学んでいくのであります。

それには、毎日のお内仏のお給仕が大切なこととなります。給仕とは、一般的にお世話をすることをいいますが、お内仏のお飾りや作法に則り仏さまに仕えることを意味します。毎日のお給仕作法をおして、念仏の心にふれていくのです。

ですから、単にきれいにすればいいということではなく、敬いの心をもって給仕させていただくべきものです。平常のお給仕の留意点などについて、お話ししておきたいと思えます。

#### ① お花をあげる。

四季折々の木花・草花を備え、いつも生き生きとした状態を保つようにします。枯れたら取り替えるようにします。造花は用いません。

#### ② 灯明を点じる。

輪灯があるお内仏では、朝夕のお勤めの時に点じます。金灯籠も同様です。

#### ③ 香を焚く。

毎日のお勤めの前には、線香を焚きます。線香は立てずに香炉の大きさに折り灰の上に置きます。

#### ④ お仏供を備える。

毎朝、炊き立てのご飯を一番最初に盛槽で形を作り、仏器に盛ってお備えます。そして、正午にお下げします。

#### ⑤ 常にきれいにする。

香炉や鈴の中へ使ったマッチの軸やローソクのくずを入れません。使ったマッチの軸は、専用のマッチ消しがありますので用意されるとよいでしょう。金箔の部分は、こすらないように毛ぼうきで軽く払い、漆の部分は柔らかい布で拭き取ります。



まとめてみますと、お花を絶やさず、お仏供を毎朝お備えし、灯明を点じ、香を焚き、合掌礼拝をもってご本尊にあう。お勤めをして教えにあい、念仏申す生活に帰らせていただくのです。

(「サンガ」第46号より)

# 平成十二年度同朋会

## 終わる！

昨年までの正信偈おつとめの会から、本年度からは祐善寺同朋会として三月から十月の第一日曜日に実施してきましたが、先般十月一日に今年度最終回の同朋会を実施しました。

ある月は、二人しか参加していただかない時もありましたが、参加していただいた皆様のと押しで、この一年、同朋会としての形は出来てきたように思います。

参加された皆様の感想を次号（平成十三年一月発行予定）と二回にわけて掲載いたします。

### 同朋会

### 参加者感想文

その①

今年の夏はきびしい暑さで三十度以上の日が何日もありました。暑い暑いと言っている間にすっかり秋も深まり朝晩が寒い位になってきて、だんだん深まって行くのを思い何だか心が淋しく感じます。

今年七月十五と十七日と二泊三日間、京都の御本山奉仕団に夫と二人で

参加させて戴きました。共に健康で有る幸せをつくづく感謝しております。また、姉弟と共にお世話に成り有り難うございました。そして八月七日の永代経にはたくさんのお参りの人で、皆さんがお齋を喜んで下さって、私は一生懸命につとめさせて戴きました事を有難く感謝しております。

後になりましたが祐善寺の同朋会にも仲間入りをさせて戴きましたが、あまり出席できなかった事を残念に思います。とても良い事だと思えますので続けて下さる事をお願いいたします。

森 木下リツオ

同朋会に参加させていただきまして本当に良かった事は、自分で少しでも御経を読めるようになった事です。父が亡くなった時に、子供で御経あげなさいと言われて、出来なかつた事がいつまでも思い出されます。

小倉は御講様をしている為、導師をしなくてはいけないので、皆さんの前で御経を読むのは本当に大変な事です。祐善寺同朋会を皆なでもりたてたい、と思うのです。 小倉 野村 武次

月に一回の祐善寺様での同朋会のおかげで正信偈をあげることが出来るようになりました。とても喜んでいますが、まだ二回程しか練習には出ていません

が...

先日、集落である講中の御講様での事です。順番で、先導師をすることになり、内心出来るか心配でした。けれど日頃の練習のおかげと言おうか、少し心にゆとりを持って正信偈をあげることが出来ました。

家では仏様におまいりしても御文様まではあげたことはありません、本当に皆の前であげたことは初めてでしたので、たいへんでした。これも祐善寺様での練習のおかげと思っています。次の回からは御文様の練習もしたいものです。 小倉 野村 勝

今年も四月頃から、祐善寺様のおかげで、月の第一の日曜日にお経を教えてもらえて良いのだが、私でなくて若者達が習ってもらえるとまだまだ良いと思います。

今の世の中では、そうとも言われず、又私にしてみれば運が良かったと思うのは、昔の人が八十の手習いと言われたように、私も七十才を過ぎて正信偈の基本をお寺のごえん様にきらくに習われる事は、私は幸せ者です。

今後よろしく願います 小倉 渡辺トモ子

私の思った事は、正直いって初めは自己流で、どうにかお経も唱えられる

し同朋会に行くのは面倒くさいなあと思いましたが。でもお寺によせてもらうと、なつかしい方にも会えるし、お経もみんなであげるととても楽しかったです。また、一行一行教えていただき、とても勉強になりました。本当は息子夫婦が行けたらいいのになあと思いません。ありがとうございます。

小倉 渡辺フミオ

人間八十年も生きて居るあいだには、家族又は親類等で息を引取る人を見る機会に遭遇した事は幾度となく有った事と思います。自分も何回もあります。特に妻を見送った時にはつくづくと考えました。元気な頃はあれだけ南無阿彌陀佛を口から離さないで喜んで暮らしていた者が、いざ其の時になると一言のお念佛も口にする事が出来ないのです。苦しさに耐える為、あるいは痛さに耐えるためなのでしょう。自分は枕元で見守りながらつくづくと考えました。お念仏は体の元気な時、そして忙しくて仕方のない時に申すものであつて、体が弱つたらとか暇が出来たらとかと言うものではないと言う事を強く感じたものでした。それなのに今もつ

て忙しいとか都合が悪いとか、それに忘れるとかで月一回の同朋会にさえ参加出来ない自分を恥かしく思っています。 小倉 野村 初治

# 第3回

# 正信偈講座

譬如日光覆雲霧  
雲霧之下明無闇

たとえ、太陽の光が雲や霧によって隠されていて、雲や霧の下に闇は無く、光が輝くように、信心の人に闇の心はありません。

獲信見敬大慶喜  
即横超截五惡趣

信心を得て佛の教えを敬い、大いに喜ば

たちどころにして、五つの迷いの世界を超え、浄土に生まれることができる。

一切善惡凡夫人  
聞信如来弘誓願

すべての人々よ、善人も悪人も

阿弥陀さまの本願のいわれを聞き、佛智の不思議を信ずるならば

佛言廣大勝解者

お釈迦さまや諸佛は、広大にしてすぐれた智慧者であるとしてたたえ

是人名分陀利華

その人を、こころ浄き白蓮華と名付けるのです。

彌陀佛本願念佛

それ故、阿弥陀さまの本願念佛の教えは

邪見喬慢惡衆生

よこしまな心や、おごりの心を持つ人々には

信樂受持甚以難

本願の心を信ずることは、はなはだ難しい。

難中之難無過斯

これほど難しいことは他にない、というほど難しいものです。

印度西天之論家

インドの偉大な高僧の方々や

中夏日域之高僧

中国や日本の高僧の方々皆

顯大聖興世正意

お釈迦さまが、この世に出現された根本の目的は

明如来本誓應機

阿弥陀さまの本願念佛の教えこそ衆生を救う教えである、と

明らかにしています。

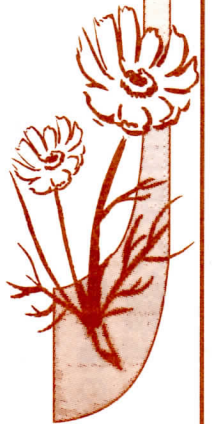
## 宗教界余話

時代の荒廢とともに、宗教界にもとんでもない宗教がはびこってきている。オウム真理教はそれ程でもないが、ネズミ講まがいのニセモノ宗教が、福井県で元氣を出しているようだ。表向きには、浄土真宗の十何番目の宗教だと嘘をつき、親鸞聖人の教えを歪曲して悪用するということでもない集団であるようだが、そのようなデタラメな集団に「信者」が続々集まって行くという現象が、私には、どうしても不可解である。それは、時代が病んでいるからなのであろうか？今の時代は、子供が大人を殺すという恐ろしい時代になってしまった。そのような狂気の時代に、狂気の宗教がはびこってきているのであろうか。

しかし、よくよく考えてみると、このようなニセモノ宗教に入信させられてしまった「信者」こそ、被害者であるような気がしてならない。

「信者」だからこそ、「教祖」や宗教団体の上層部の黒幕から「地獄に墮ちる」と脅され、金をまくしあげられるのである。だから、金の無い者は財産まで処分しなければならぬのである。明らかに、「信者」は被害者であることがわかるであろう。「信者」の人達よ、早くニセモノ宗教の犯罪性に目覚めて、そんなニセモノ宗教から足を洗ってほしい。

# お知らせ



## 報恩講

十一月二日(木)

日中 午前十時より

速夜 午後二時より

初夜 午後七時より

布教・南居 陽願寺様

平日ではありませんが、皆様お誘いあわせの上、ご参詣下さいますようお願いいたします。

### 衛星(CS)放送

#### 東本願寺「心の時間」

##### スカイA

- ・チャンネル スカイ・パーフェクTV ch.285
- ・放送日 第1、第2、第3日曜日
- ・時間 午前8時45分～9時

### ラジオ放送

#### 『東本願寺の時間』

- ・福井放送(FBC)
- ・毎週日曜日
- ・午前7時30分～7時40分

日曜日の朝は、FBCラジオの「東本願寺の時間」から始まります。

## 入門 介護保険③

今回は、要介護度ごとの身体の状態や介護保険のサービス利用額等について

第二次判定によって要介護度が決まり、要介護度に応じて介護保険サービス利用額も決まります。要介護度ごとの身体の状態と利用額は次の通り。

##### ◎要支援

日常生活の能力はあるが、入浴等に一部介助が必要

限度額・六一、五〇〇円(月)

##### ◎要介護Ⅰ

立ち上がる、歩くなどの日常生活の基本動作が不安定。

限度額・一六五、八〇〇円(月)

##### ◎要介護Ⅱ

起き上がりが自力では困難。排泄、入浴等で一部の介助が必要。

限度額・一九四、八〇〇円(月)

##### ◎要介護Ⅲ

日常生活の基本動作に全体の介助が必要

限度額・二六七、五〇〇円(月)

##### ◎要介護Ⅳ

日常生活の多くの行為で全面的な介助が必要。

限度額・三〇六、〇〇〇円(月)

##### ◎要介護Ⅴ

生活全般で全面的な介助が必要

限度額・三五八、三〇〇円(月)

## 編集

## 後記

★あんなに暑かった夏も季節の移ろいと共に何処へやら過ぎ去り、朝夕は肌寒くなって来ました。皆様、お身体お変わりございませんか。

★「如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も 骨を砕きても謝すべし」という和讃で有名な恩徳讃の大きな額が本堂に寄進されました。これから永久的に当寺の本堂に掲げられ、門信徒の皆様は恩徳讃の精神も受け継がれていくことでしょう。

★同朋会に参加された方から感想文をいただきました。ある月には二人の方と同朋会をやらせていただいたこともありますが、連如上人の「一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、威の大きな事にてはなく候う。一人なりとも人の信を取るが、一宗の繁昌に候う」というお言葉に支えられて実施することができました。未熟な私の主宰する同朋会に参加していただいた皆様感謝いたします。

★本年度の報恩講が例年通り十一月二日に厳修されます。お忙しいとは存じますが、是非、ご参詣くださいますようお願いいたします。

★寒くなってきましたので、くれぐれもご自愛下さいますように。